

長沼ダム完成

迫川の洪水対策として県が昭和46年に事業着手した「長沼ダム」が完成し、管理に移りました。

本体工事を終えた長沼ダムでは、ダム本体や放流設備、貯水池周辺などに問題がないかを確認するため、昨年11月から試験湛水を実施してまいりました。

試験湛水では、貯水位を平常時より約4メートル高い洪水時最

高水位（KP+12・60メートル）まで上昇させ、その後、最低水位（KP+6・50メートル）まで下降させました。試験湛水の結果、ダムの総合的な安全性が確認されました。

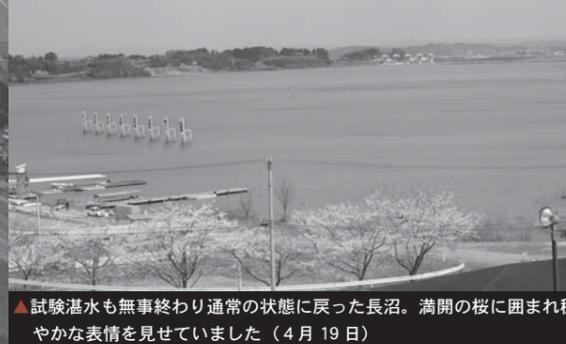
事業着手から43年。完成した長沼ダムの総貯水容量は3180万ト。洪水調節や既得用水の補給のほか、ボート競技コースとして湖面利用を図る多目的ダムとなります。



長沼の全景を捉えた航空写真（県東部土木事務所登米地域事務所提供）



▲試験湛水で最高水位まで水をためた後、今度は最低水位まで下げるため、水門から迫川と荒川にダムの水が放流されました（2月25日）



▲試験湛水も無事終わり通常の状態に戻った長沼。満開の桜に囲まれ穏やかな表情を見せていました（4月19日）

長沼ダム概要

主要施設

- ◆主ダム
堤高 15.30メートル
堤頂長 1,050メートル
- ◆導水路
延長 2,700メートル
堤間 105.5メートル
- ◆長沼水門
幅 20メートル × 4門
- ◆砂原水門
幅 15メートル × 1門
- ◆自然越流堤
延長 580メートル
- ◆湖周道路
延長 27キロメートル

総貯水容量

3,180万立方メートル

貯水位

- ◆平常時最高貯水位
(10月1日～6月30日)
KP + 8.70メートル
 - ◆洪水貯留準備水位
(7月1日～9月30日)
KP + 8.10メートル
 - ◆洪水時最高水位
KP + 12.60メートル
- ※KP=北上川基準水面

総事業費

834億円



試験湛水で洪水時の最高水位まで水をためた状態の長沼（2月23日）。平常時に比べ4メートルほど水位が高く、左側に見えるレーンナンバー表示板も3分の1ほどが水没しています。これまでとは違った長沼の姿を見ることができました